# 2005年6月22日　山梨日々新聞「顔」欄

（第三種郵便物認可）

顔

第10回山梨科学アカデミー賞を受賞した

**中尾　篤人さん**

なかお・あつひとさん
千葉大医学部卒。山梨大大学院医学工学総合研究部教授。順天堂大医学部客員教授。東京都文京区。42歳。

## 先進の研究成果広く発信

免疫学が専門。がんやアレルギー、関節リウマチなどの発症に関与しているとされるタンパク質分子の一つが細胞内で作用する仕組みを解明。予防や治療に応用できる研究として評価された。十年の歴史を持つアカデミー賞の中で最年少の受賞。「賞の名に恥じないよう、これからも精力的に研究活動を続けたい」と謙虚に喜びを語る。

免疫学は、体内に侵入した細菌などを撃退し、身体を守る仕組みなどを研究する学問だ。大学卒業後は千葉県内の病院に内科医として勤務。リウマチやアレルギーの患者らを多く診てきた経験から「あらゆる病気に関係する免疫学を追究したいと思った」と話す。

現在確認されている病気のうち、根本的な原因が解明されているのはごくわずかという。「花粉症の薬を飲んだり、糖尿病でインスリンを打つのは対症療法。病気は体内で何らかの作用が働いて完全に治癒する。その仕組みをタンパク質分子の研究から解明し、病気の本質や根治療法を見いだすことが最終目的」と意気込む。

三十九歳の若手教授として山梨大に迎えられ、約二年が経過した。細胞やDNAを"相手"に地道な研究を続ける一方で、学内の軟式野球チームに所属し、週二回の早朝練習に汗を流すアクティブな一面も持つ。「風光明美で、ワインもおいしい。学内の雰囲気も気に入っている。地方都市でも先進的な研究の成果を発信すれば必ず世界中から注目され、人が集まる。皆で協力し、山梨大をグローバルな研究拠点に成長させることができたらいい」

研究者としての信条はオリジナリティーを大切にすること。「しっかりと目標を定め、『ナンバーワンよりオンリーワン』の研究をしていきたい」と語った。

（鎌倉　豊秀）